

2025年2月12日（水）

老球の細道853号

大雪とバスケットボール

会津バスケットボール協会 室井 富仁

雪国会津では大雪が日常茶飯事である。私が小学校低学年時だったろうか。あまりにも大雪のために家の玄関から出入りすることができず、2階から出入りしたことを今でも覚えている。最近は大雪で困ったという経験は少なくなったが先週の歴史的な大雪には参った。

会津地方は7日、記録的な大雪に見舞われた。わが会津若松市では1メートルを超える雪が積もり、統計開始以来最深の積雪を観測した。積雪の深さが121センチになり、2010年12月に観測した115センチを上回り、1953年統計開始以来最も雪が積もった。

2010年12月の大雪には今でも苦い思い出と困難を克服した達成感を記憶している。それは世にいう「古殿スポーツクラブ講習会事件」である。前回の大雪日2010年12月26日（日）のことであった。この日は県南地区の古殿町で「古殿スポーツクラブ」創設を記念して県体育（スポーツ）協会からバスケット講習会を依頼された。当時葵高校のコーチだった私は、生徒3人を連れて朝6時に葵高校を出発する予定だった。ところが前夜から雪が降り続け、朝、葵高校に集合した時は腰の辺まで積雪。当時は「困難にチャレンジ」をモットーにしていたので、ものともせず学校を出発。しかし磐越道は磐梯熱海まで通行止め。

49号線も河東まで来たら通行止め。そこで磐梯町から猪苗代町まで迂回したが、猪苗代町に入ったら大型ダンプがスタックし大渋滞でストップ。この時点で時間通りに古殿町まで行けなくなるので講習会ができないことを主催者に連絡した。そしたら県南地方はそれほど雪が降らなかったせいか、「大丈夫です。午後からでも先生の講習会を行いますので是非来てください。待っています」という返事だった。戻るにも戻れないので行くしかない。

選手に常日頃から「困難への挑戦」を説いていたことから、私自身も言行一致でなければならない。状況判断と決断力が試される。渋滞をどのように突破するか迷っていた時、脇道の狭い農道から1台の軽トラックが走って来た。もしかしてその道を行けば磐梯熱海に向かう国道49号線に出れるかもしれないと思い、神様仏様に祈りながら進路を変えた。

天は自ら助くる者を助く。49号線の志田浜近辺に出た。そこからは渋滞もなく順調に磐梯熱海インターへ到着。そして須賀川から古殿町に向かった。しかし一難去ってまた一難。方向音痴の私は道を間違ってしまった。カーナビのない私は「勘ナビ」、鬼妻が隣に乗っている時は「カカアナビ」に頼るのが常だったので未知の「古殿町」はハードルが高かった。

何度か行ったり来たりしながらなんとか午後の講習会には間に合うことができた。選手達も疲労に負けないで見事なデモンストレーションを見せてくれた。帰りは「行きは怖いが帰りは良いよい」でスムーズに帰着。人は試練に耐えた強さだけ成長する。

大雪にもかかわらず困難を突破したことから、2010年以後12月26日を「突破の日」記念日とした。あれから15年、老球爺様は突破することより雪かきに専念して車での不要不急の外出は避けるようになった。「汗をかけ」「恥をかけ」「頭をかけ」と「雪をかけ」。